

## 第9章 延焼拡大・避難状況

### 1 延焼拡大状況

- 建物用途の延焼拡大率は、14 項の「倉庫」が 60.0% で最多。
- 火元建物から他の建物に延焼した火災が 121 件発生。

#### (1) 火元建物内の延焼拡大状況

ここでとりあげる「延焼拡大」とは、火元が建物の火災のうち部分焼以上に延焼拡大した火災をいいます。

令和 6 年中の「延焼拡大」した火災は 543 件で、建物から出火した火災（3,216 件）に占める割合（延焼拡大率）は 16.9% となっています。

#### ア 用途別火災状況及び出火室の延焼拡大理由

火災が 10 件以上発生した建物の主な用途別に延焼拡大率をみたものが表 9-1-1 です。

また、出火室の延焼拡大経路をみたものが表 9-1-2 です。

表 9-1-1 火災 10 件以上用途別延焼拡大率

政令用途等		建物の 焼損程度		
		全 件 数	部分 焼 以 上 件 数	延 焼 拡 大 率 (%)
政 令 用 途	14 項（倉庫）	20	12	60.0
	12 項イ（工場）	85	24	28.2
	5 項ロ（共同住宅等）	1,143	203	17.8
	3 項ロ（飲食店）	393	56	14.2
政 令 用 途 以 外	住居	503	157	31.2
	複合用途の住宅部分	78	23	29.5
	付属建物等	24	6	25.0

表 9-1-2 出火室の延焼拡大経路

出火室の延焼拡大経路	件数	半焼以上件数
合計	543	139
家具調度品・商品材料等	136	33
家具調度品 ・商品材料等	→ 天井	103
	→ 天井 → 小屋裏	40
	→ 小屋裏等	7
内壁	→ 天井	132
	→ 天井 → 小屋裏	22
	→ 小屋裏等	3
ふすま ・子 ・カーテン等	→ 天井	9
	→ 天井 → 小屋裏	2
	→ 小屋裏等	2
天井	9	2
天井 → 小屋裏	11	3
小屋裏・天井裏・壁内・土台等	8	3
その他	30	3
不明	29	11

## イ 他室への延焼拡大経路

水平方向の延焼拡大経路についてみていきます。出火区画外へ延焼しなかった火災 382 件を除き、他室へ延焼した火災 161 件の延焼拡大経路についてみたものが表 9-1-3 です。

表 9-1-3 他室への延焼拡大経路

他室への延焼拡大経路	建物構造						その他造
	合計	耐火造	準耐火造	防火造	木造	その他造	
合計	161	29	13	96	14	8	
開いている開口部	74	19	8	41	3	3	
閉まっている開口部（その他）	25	1	1	16	5	2	
壁の燃え抜け	16	-	2	11	1	2	
区画のない小屋裏部	13	-	-	12	-	1	
閉まっている開口部（防火設備）	10	1	-	8	1	-	
壁の穴	4	1	-	3	-	-	
その他	19	7	3	5	4	-	

## ウ 他階への延焼拡大経路

他階への延焼拡大経路についてみていきます。他階へ延焼拡大しなかった 423 件を除いた 120 件の延焼拡大経路をみたものが表 9-1-4 です。

表 9-1-4 他階への延焼拡大経路

他階への延焼拡大経路	建物構造						その他造
	合計	耐火造	準耐火造	防火造	木造	その他造	
合計	120	20	9	80	8	3	
壁内	25	-	1	24	-	-	
床の燃え抜け	24	-	-	20	3	1	
その他の階段	23	-	4	17	-	2	
外壁の開口部	14	7	2	4	1	-	
ダクトスペース	3	2	-	1	-	-	
ダクト	3	2	-	1	-	-	
その他	28	9	2	13	4	-	

- 出火室の延焼拡大経路をみると、小屋裏まで延焼拡大した火災は 95 件 (17.5%) 発生し、そのうち 48 件 (50.5%) が全焼、半焼にまで延焼拡大。
- 他室への延焼拡大経路をみると、「開いている開口部」が 74 件 (46.0%) で最多。
- 他階への延焼拡大経路を建物構造別にみると、防火造・木造が 88 件 (73.3%) を占めており、そのうち延焼拡大経路では「壁内」が 24 件 (27.3%) で最多。

## (2) 類焼建物への延焼状況

### ア 建物構造別及び隣棟間隔別延焼状況

建物から出火し、他の建物（最初の類焼建物）へ延焼した火災 121 件（3.8%）の延焼要因についてみていきます。類焼建物の構造と焼損程度をみたものが表 9-1-5 です。

また、隣棟間隔と類焼建物の構造についてみたものが表 9-1-6 です。

表 9-1-5 類焼建物の構造と焼損程度

類焼建物構造	類焼建物の焼損程度				
	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや
合 計	121	17	5	55	44
耐 火 造	12	-	-	7	5
準 耐 火 造	21	-	-	12	9
防 火 造	44	5	4	22	13
木 造	4	1	-	1	2
その他の構造	40	11	1	13	15

表 9-1-6 建物の隣棟間隔と類焼建物の構造

類焼建物構造	火元・類焼建物の間隔							
	合計	1m未満	1m以上2m未満	2m以上3m未満	3m以上4m未満	4m以上5m未満	5m以上	
合 計	121	8	67	20	18	3	5	
耐 火 造	12	-	9	2	1	-	-	
準 耐 火 造	21	-	15	2	4	-	-	
防 火 造	44	4	21	10	5	3	1	
木 造	4	-	1	-	2	-	1	
その他の構造	40	4	21	6	6	-	3	

- 類焼建物で全焼、半焼にまで延焼拡大した火災 22 件を構造別でみると、その他構造が 12 件（54.5%）、防火造が 9 件（40.9%）、木造が 1 件（4.5%）発生。
- 隣棟間隔が 1m 以上 2m 未満の建物に延焼した火災が 67 件（55.4%）で最多、そのうち防火造及びその他構造が各 21 件（31.3%）で最多。
- 隣棟間隔が 5m 以上の建物に延焼した火災は 5 件（4.1%）発生し、そのうちその他構造が 3 件（60.0%）で最多。

### イ 類焼建物の延焼箇所

類焼建物のどの部分に延焼したのかをみたものが表9-1-7です。

表 9-1-7 類焼建物の延焼箇所

類焼建物の構造	合計	類焼建物の延焼箇所									
		外壁					開口部	屋根面	軒裏		その他の
		モルタル	板張り	金属板	外壁のない部分	グラスライト			防火構造	その他の	
合計	121	29	11	6	4	2	30	3	2	6	28
耐火造	12	4	-	-	1	-	4	-	-	-	3
準耐火造	21	7	1	3	-	-	4	-	1	1	4
防火造	44	12	2	1	1	1	11	2	1	2	11
木造	4	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-
その他構造	40	6	5	2	1	1	11	1	-	3	10

- 類焼建物の延焼箇所では、外壁が52件(43.0%)で最多、次いで開口部の30件(24.8%)。
- 建物構造別にみると、耐火造では「外壁」が5件(41.7%)、準耐火構造でも「外壁」が11件(52.4%)、防火造でも「外壁」が17件(38.6%)でいずれも外壁が最多。

## 2 避難状況

- 建物から出火し 50 人以上が避難した火災は 28 件発生。
- 避難上の支障理由は、「廊下が火煙で利用できなかった」、「火災に気づくのが遅かった」が最多。

### (1) 避難行動のあった火災

ここでとりあげる「避難」とは、建物から出火した火災 3,216 件で、出火時に火元建物から避難行動があつた火災をいいます。ただし、避難階からのみ避難行動が行われた火災は除きます。

避難行動があつた火災は、441 件 (13.7%) 発生しています。

#### ア 用途別避難状況

用途別に避難状況をみたものが表 9-2-1 です。

表 9-2-1 用途別避難状況

出		火		し		た		用		途		合計	10人未満	10～19人	20～29人	30～39人	40～49人	50～59人	60～69人	70～79人	80～89人	90～99人	100～199人	200人以上
合				計		441		337		40		27	7	2	6	2	4	1	2	7	6			
一 項	イ	映	画	館		2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
二 項	イ	ナ	イ	ト	ク	ラ	ブ	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
三 項	ロ	遊	技	場		1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
四 項	ロ	飲	食	店		73	44	14	7	5	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-			
五 項	イ	物	品	販	売	店	舗	11	5	3	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-			
五 項	イ	ホ	テ	ル		8	4	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1			
	ロ	寄	宿	舍		3	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
共 同 住 宅		宅		177		139		16		13		1		1		1		2		1		1		
六 項	イ	(4)	診療所 (患者入院施設を有しないもの)			2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	ロ	(1)	小規模多機能型施設 (要介護者宿泊)			1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	ロ	(1)	有料老人ホーム (要介護者入居)			2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	ハ	(3)	保	育	所	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
七 項	ハ	(4)	放課後等デイサービスを行う施設			1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	小		学	校		2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
	大		学	校		1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	各		種	学	校	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1			
そ の 他 の 学 校				1		1		-		-		-		-		-		-		-				
十二 項	イ	工	場			3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-		
作 業 場				7		7		-		-		-		-		-		-		-				
十四 項 倉				2		1		-		-		-		-		-		-		-				
十五 項	研	究	所			1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	事	務	所			13	7	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-		
そ の 他 事 業 所				13		9		3		-		-		-		-		1		-				
共 用 部 分 (機 械 室 等)				8		6		-		-		-		1		-		-		1				
使 用 中 建 物 の 工 事 部 分				2		1		-		1		-		-		-		-		-				
住 居				82		82		-		-		-		-		-		-		-				
付 属 建 物 等				1		1		-		-		-		-		-		-		-				
複 合 用 途 の 住 宅 部 分				21		19		1		-		-		-		1		-		-				
焼 損 程 度	全 燃		27		27		-		-		-		-		-		-		-					
	半 燃		32		31		-		1		-		-		-		-		-					
	部 分 燃		201		157		22		8		3		1		3		1		2		1			
ぼ や				181		122		18		4		1		3		1		2		-				
																				1				
																				6				
																				5				

- 避難のあった火災の多くは、共同住宅や住宅などの居住系の用途で 283 件 (64.2%) 発生。
- 避難人員が 50 人以上発生した火災は 28 件 (6.3%) で、飲食店、ホテルなどの不特定多数の人が出入りする建物や共同住宅、事務所などの建物で発生。
- 避難人員が 300 人以上の火災は 6 件 (1.4%) 発生。

## イ 避難上支障のあった火災

避難上支障のあった火災は23件(5.2%)発生しており、階層別の避難上の支障理由をみたものが表9-2-2です。

表 9-2-2 避難上の支障理由

避 難 上 の 支 障 理 由	合 計	出 火 階	出 火 階 の 直 上 階	出 火 階 の 直 上 階 以 外 の 上 階
合 計	23	18	3	2
廊下が火煙で利用できなかった	5	3	1	1
火災に気づくのが遅かった	5	5	-	-
自力避難が困難	2	1	1	-
避難時期が遅かった	2	2	-	-
その他	9	7	1	1

注 その他には、「報知がなされなかった」、「パニック状態となった」などがあります。

- 避難上支障があった階層をみると、「出火階」が18件(78.3%)で最多、「出火階の直上階」が3件(13.0%)、「出火階の直上階以外の上階」が2件(8.7%)。
- 避難上の支障理由は、「廊下が火煙で利用できなかった」、「火災に気づくのが遅かった」が各5件(21.7%)で最多。
- 避難上の支障理由を階層別にみると、出火階では「火災に気づくのが遅かった」が5件(27.8%)で最多。

## (2) 施設別の避難状況

### ア 階段別の避難状況

階段の種類別に避難に支障があった状況をみたものが表9-2-3です。階段の不使用が25件発生しています。

表 9-2-3 階段の種類別に避難に支障があった状況

使 用 状 況		階 段 の 種 類 別			
		合 計	屋 内 阶 段	屋 外 阶 段	屋 内 避 難 阶 段
不 使用	合 計	25	16	8	1
	階段へ煙が入った	7	5	1	1
	階段へ延焼した	2	2	-	-
使 用	シャッターが締まらず	1	1	-	-
	そ の 他	15	8	7	-

- 不使用であった25件の内訳をみると、屋内階段が16件(64.0%)、屋外階段が8件(32.0%)発生。
- 不使用の理由をみると、「階段へ煙が入った」が7件(28.0%)で最多、次いで「階段へ延焼した」が2件(8.0%)発生。

## イ 階段以外の避難方法

階段以外の避難があった火災 68 件についてみたものが表 9-2-4 です。

表 9-2-4 建物区分別の階段以外の主な避難方法

階段以外の主な避難方法	合	建物				区分	
		3階以下	4階	以上	上	の	階
内廊下に面して室のある建物（ホテル等）	（ホ テ ル 等 ）	（内 廊 下 に 面 し て 室 の あ る 建 物 ）	（外 廊 下 に 面 し て 室 の あ る 建 物 ）	（面 廊 下 が な く 室 の あ る 建 物 ）	（面 廊 下 が な く 室 の あ る 建 物 ）	（各 階 に 広 い ス ペ ー ス の あ る 建 物 ）	（百 貨 店 ・ 劇 場 等 ）
計	68	31	23	8	4	2	
エレベータを利用した	26	1	14	7	2	2	
消防隊に救助された	13	6	5	-	2	-	
窓から直接	4	3	1	-	-	-	
はしご	1	1	-	-	-	-	
窓、ベランダ等から隣室を経て地上	1	1	-	-	-	-	
その他の	23	19	3	1	-	-	

- 階段以外の避難があった火災では、3階以下の階からの避難が 31 件 (45.6%) で最多、そのうち「消防隊に救助された」が 6 件 (19.4%) で最多。
- 階段以外の主な避難方法で最も多いのが、「エレベータを利用した」が 26 件 (38.2%)、次いで「消防隊に救助された」が 13 件 (19.1%)、「窓から直接」が 4 件 (5.9%) など。
- 「エレベータを利用した」火災 26 件のほとんどが 4 階以上の建物からの避難であり、そのうち内廊下に面して室のある建物（ホテル等）は 14 件 (53.8%) で 5 割以上を占める。

memo